

令和4年度 自己評価表

鳥取県立米子西高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人材の育成を図る。	今年度の 重点目標	1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9 月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む 態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。1年次生中心にChromebookの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は90.6%であった。	・授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が90%以上になる。 ・Chromebookを活用した授業が実施されている。	・課題解決学習の推進を図り、Chromebook等の活用を促進するため、活用法紹介通信の発行や職員研修・校内での授業公開等を実施する。また、このことを教員の端末利用や電子黒板利用促進に繋げる。(R3：89.5%→R4：90%) ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	・新課程となった1年次の授業や評価について、各科目で検討を行い、より良いものにしようと努力している。 ・1年次生では平常授業では進度の遅れから、Chromebookを活用しながらの学習があまり進んでいないものの、オンライン授業やハイブリット授業をに日常的に行えるようになっており、Chromebookを活用して円滑に授業ができるようになっている。 ・授業アンケートを1学期末に実施して、課題を分析している。	B	・今後予定される校内研修を実施し、評価の検討を行う。 ・平常の授業の進度を回復させ、Chromebookを活用するよう学力向上委員会等で働きかける。 ・2学期末に授業アンケートを実施し、課題克服に努める。
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	みらいチャレンジ活動も6年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	・地域の資源を活用した多様な教育活動をととして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を1月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。 ・環境の変化に対応できるよう、活動をリモートで行えるよう準備を整える。	・2年次での探究活動充実を目指し、1年次後半から取り組めるよう年間スケジュールを作成した。 ・夏季休業中に事業所訪問、大学研究室訪問を通じて課題を明確にし、2学期の探究活動につなげた。	B	・ハイレベル講座では、プレゼンの大切さを学び、効果的な発表方法を習得する予定。 ・事業所訪問等の経験を通し、課題解決学習を深掘するよう担当教員との打ち合わせを行い、生徒の自主性を引き出す活動になった。
	学習習慣の定着	家庭学習時間調査結果によれば、1日の学習時間が9月調査では1年140分、2年81分、3年164分となっており、学年によって差がある。	・「学習記録」を実施し、学習習慣定着に役立たせる教員の指導が容易に行えるようになる。	・学習記録に基づいた生徒面談を実施し、効果的な個別指導を行う。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。 ・Classroomを活用し、生徒が主体的に学習できる環境を研究する。	・1年次、2年次は日常的に学習記録を行っている。6月に実施した学習時間調査では、1年次98分、2年次120分、3年次127分であった。	D	・学力向上委員会で分析を行ったうえで、学習記録を基にした面接を通じて主体的な学習になるよう改善を図る。
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が64名・難関私立大現役合格者16名であり、目標を達成できた。	・国公立大学現役合格者60名 ・難関私立大学現役合格20名	・総合型・学校推薦型選抜入試に対応できるようプレゼンテーションやグループディスカッション力が身につくよう指導する。 ・進路ガイダンスの充実を図り、生徒へ早期に動機付けをする。 ・小論文指導等を含め、全職員で取り組む。	・1、3年次生の進路講演会を行い、進路意欲を喚起できた。初めて公立鳥取環境大学説明会を行ったが、参加生徒は大学や入試を身近に感じた。 ・小論文指導・面接指導を全職員で取り組むことを確認し、指導が始まっている。 ・3年次生は総合的な探究の時間に、2年次に作成した志望理由書を活用して対象のクラスを作り、グループディスカッションの練習に早めに取り組んだ。	B	・2年次生の進路講演会は2月に実施予定。 ・個々に応じた小論文指導等を行い、生徒が入試に対応できる力を高める。 ・取り組みが遅く、教員からの指示を待っている生徒が見られる。対象生徒が夏休みに取り組んだ課題を使って、放課後にプレゼンテーションやグループディスカッションの練習を企画する。
2 他者を認め、人と つながる力の育成	基本的生活習慣の確立	真面目な生徒が多く、年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合は90%である。自己肯定感の高まりを感じる生徒が57%程度である。	・年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が90%以上。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が70%。	・基本的生活習慣が学校生活を送る上で大切であることを認識させ、様々な場面において自主的に行動できるよう働きかけを行う。 ・情報モラル・リテラシーの指導を継続し、トラブル防止に努める。 ・生徒面談を活用し、生徒の意欲を喚起する取り組みを充実させる。 ・褒める指導を中心に、達成感を感じられる取り組みを展開する。	・遅刻について昨年度同時期と比較すると、多少減少している。	B	・SHR等を利用し、時間を守ることの大切さを伝え指導する。
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和3年度は新型コロナウィル感染症の拡大で影響を受けたものの、運動部全国・中国大会23競技、文化部全国大会5部門が出場した。	・運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場 ・人前で発表する経験が得られる。	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。 ・新型コロナウィル感染症対策を徹底し、効率よく意欲的な活動ができるように計画を立てる。 ・部活動の場を保証する。	・新型コロナウィル感染症の影響による活動制限の中、個人種目でインターハイに2種目に出場し、文化部でも全国高文祭に6部門出場した。	B	・新型コロナウィル感染症予防対策を徹底し、効率よく活動できるように計画を立てる。
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業、総合的な探究の時間で実施している。	・社会人講師から多様な考え方や生き方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。 ・新型コロナウィル感染症対策で、直接講演ができない場合でもリモートで対応できるよう計画する。	・社会人として必要な資質や考え方を知り、生徒は今後の生活をより有意義に過ごすためのヒントを得た。予定通り7月に11名の講師で開催した。 ・3年次生の人権教育講演会で社会人講師の方の体験や考え方から、差別を許さない生き方をする意識を高める機会を得た。	B	・講話を依頼する職種については、来年度も生徒の実態に合わせて決定する。 ・社会人講師の方と、生徒に伝えたいこと・考えさせたいことについてよく話し合い、共通理解をして、講演会後の学習につながる指導計画を作成する。
3 地域を知り、地域 に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	・みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。 ・ループリック評価表を充実するため、生徒の意見を反映させて探究活動に取り組むように促す。 ・みらいチャレンジ活動の期間を広げ、充実を図る。	・2年探究において、米子市役所職員のサポートを受けて探究活動を進めている。特に、事業所訪問として、多くのグループが米子市役所を訪問するなど、連携を深めている。	B	・1年次の探究活動においても米子市との連携を図り、探究活動の充実を図る。
	学校の魅力・特色の情報発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。(令和3年度は新型コロナウィル感染予防のため中止)	・地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・社会環境の変化に順応した発表方法を工夫し、学校情報の効果的な発信を行う。 ・ホームページに動画を掲載する。	・文化部総合芸術祭「翠燦く」は、3月開催予定。 ・ホームページへの動画の掲載はあまり進んでいない。	C	・動画掲載を部活動単位で呼びかけるとともに、ホームページへの記事の掲載を積極的に行ってもらよう呼び掛ける。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究、分掌業務等で、時間外業務を削減できない教員もあった。	・時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。	・部活動における勤務時間外の時間数超過人数は減少してきているが、特定の職員について解消されない。 ・会議精選はできているが、業務内容見直しは3学期以降。	C	・時間外勤務超過者に対して注意喚起する。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】